【第４回】坂下中学校区の学校づくりを考える懇談会　議事録

１　開催日時

令和８年 10 月 30 日（金）午後１時 30 分～午後３時

２　開催場所

ハーモニー春日井（青年の家）　ホール

３　出席者

【構成員】

就学児保護者（坂下中学校）	平野　晴香、石井　直子
就学児保護者（坂下小学校）	大橋　裕美、岡島　有香里
就学児保護者（西尾小学校）	傍島　愛
就学児保護者（神屋小学校）	松野　裕介、落合　沙織
未就学児保護者（坂下北保育園）	稲垣　雄也、鵜飼　史佳
未就学児保護者（神屋保育園）	富山　敦子、彦坂　夕貴
未就学児保護者（中央大和幼稚園）	栗田　麻衣
地域住民（坂下小学校区）	鈴木　信行
地域住民（西尾小学校区）	鵜飼　透、森　一成
地域住民（神屋小学校区）	小川　茂徳、稲垣　新一
坂下地区社会福祉協議会長	白石　松夫
坂下中学校長	原山　格
神屋小学校長	清水　裕介
坂下中学校評議員	倉知　康雄
坂下小学校評議員	松本　伸雄
西尾小学校評議員	白石　敏雄
神屋小学校評議員	松浦　祝利
神屋保育園長	稲垣　拓馬
中央大和幼稚園長	小川　長

【事務局】

春日井市教育委員会	部長	森本　邦博
教育総務課	主幹	片寄　孝治
学校教育課　新たな学校づくり推進室	室長補佐	深見　健司
〃　〃	主査	安田　和志

学校教育課　新たな学校づくり推進室		主事	杉山　太一
〃		指導主事	田中　秀治
まちづくり推進部			
都市政策課		課長補佐	熊澤　伸晃

4　傍聴者

11 人

5　内容

⑴　市からの説明

⑵　構成員どうしによる意見交換

⑶　質疑応答

⑷　その他

6　会議資料

第４回坂下中学校区の学校づくりを考える懇談会

会議録（要点筆記）

午後１時 30 分　開会

１　開会

【事務局から報告】

本日の懇談会において構成員７人の欠席を報告。

【教育部長あいさつ】

日頃より市政に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、お礼申し上げます。

本日は第４回の懇談会となります。８月に開催した第３回懇談会では、「同じ敷地内に小学校と中学校がある施設一体型の小中一貫教育制度を導入すること」、また、「坂下中学校の敷地に小学校３校を統合した新しい小学校と中学校を新設すること」という本市の考え方をお示しし、皆様には概ねご理解をいただいたものと捉えています。

９月 27 日には、坂下中学校区の保護者や地域の皆様を対象に意見交換会を開催し、21 名の方にご参加いただきました。先ほどの本市の考え方をお示ししたところ、「通学における安全を検討してほしい。」、「小中一貫教育制度についてアンケートを取ってほしい。」、また、「西尾小学校と神屋小学校を先行して統合する場合はどうなるのか。」などのご意見をいただきました。本市の回答として、通学の安全については、しっかりと対応していきたい、アンケートの実施については、今の段階では取り直すことを考えていないが、今後パブリックコメントなどの機会もあるので、それらを通じて皆様からご意見をいただきたい、また、西尾小学校の先行統合については、西尾小学校と神屋小学校が先行して統合した場合でも、各学年で複数クラスを確保できない状況であり、あくまでも小学校は３校統合が前提ですとお答えしました。

10 月８日には、皆様とともに、本年４月に設立された多治見市の笠原小中学校へ視察に行きました。この学校は小中一貫教育制度を導入している義務教育学校ですが、学校施設や授業の風景を実際に見学し、皆様にとって新しい学校のイメージを深める貴重な機会になったのではないかと思っています。

さて、本日は通学バスについて、また、西尾小学校の先行統合について、皆様からご意見をいただきたいと思います。子どもたちにとって何が最善かという視点を大切にしながら、坂下中学校区の未来を担う子どもたちのために、皆様とともによりよい学校づくりを進めていきたいと考えています。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

２　事務局からの説明

本日の資料は、通学バスについて、運用形態や運用方法などをまとめている。

今後、策定を予定している「学校統合に向けた計画」の中で、通学バスについては、運用形態や利用対象者の範囲など、本日の資料と同程度の内容を記載することを考えている。どの区域までをバスの利用対象範囲とするか、バス停はどこに設置するのかなどの詳細については、統合後の新しい学校の開校が近くなったもう少し先で、その時の児童の住んでいる場所の分布やバス停として利用できる場所などを踏まえ、あらためて検討することが必要であると考えている。

Ⅰ　通学バス

①　運用形態（資料１ページ）

・運用形態については、学校統合による通学距離や通学時間の変化に対応するため、児童の安全確保と持続可能な運行を考慮し、最適な方法を検討する必要がある。
・通学バスについては、２つの運用形態が考えられる。
　１つ目は、児童の通学専用の車両を新たに運行する「専用バスの運行」である。
　２つ目は、既存の一般路線バスを通学に活用する「路線バスの活用」である。必要に応じて、ダイヤの調整や増便を行う。
・２つの運用形態を比較すると、「専用バスの運行」は、学校の授業や行事に合わせやすい、独自のルート設定やバス停の設置が可能となるといった、学校生活への適合性や運行の柔軟性に優れている。また、一般利用者がいないため、児童の安全管理や見守りがしやすく、安全性も高い。
・一方で、「路線バスの活用」は、地域全体の公共交通の安定的な維持につながるといった地域貢献・波及効果があることや、既存の交通資源を共有するため、費用の縮減が期待できることが優れていると考えられる。
・どちらの運用形態の場合でも共通して検討する必要がある項目として、危険箇所への対応や見守りボランティアの配置などバス停までの安全確保、添乗員の同乗や乗降時の確認体制などの低学年の児童への配慮、保護者への一斉連絡システム、代替運送手段の確保などの欠便・遅延時の対応、下校便の複数設定など、学年ごとの下校時間にあわせたバスの運行など授業終了後の対応がある。

②　運用方法（資料２～３ページ）

・バス利用対象者の範囲について、本市の「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」では、「小学校は1.5㎞、中学校は２㎞までを標準とするが、徒歩のほか、自転車やバスでの通学も考慮し、小学校は４㎞、中学校は６㎞までを可能とする。」としている。

・中学生については、現在、坂下中学校の通学方法は徒歩及び自転車としていることから、基本的に通学バスの利用対象外とすることを考えている。ただし、個別の生徒の状況を考慮し、必要に応じて通学バスの利用対象とする。
・小学生については、新しい学校からの直線距離が 1.5km を超える児童を通学バスの利用対象とする。また、1.5 ㎞以内でも、通学路の坂道や危険箇所など現地の状況を考慮し、必要に応じて通学バスの利用対象とする。
・乗降場所については、待機中や乗降時の児童の安全性が十分に確保できること、通学バスの駐停車に伴い、他の走行車両や歩行者への影響が生じない十分なスペースを確保できることが必要である。
・坂下公民館やあい農パーク春日井などの公共施設を乗降場所の１つとして想定している。また、公共施設だけでは乗降場所の十分な確保が困難な場合には、周辺の民間施設の活用も含めて検討していく。
・バス利用対象エリアは、３ページに地図上で示している。基本的には、坂下中学校を中心とした半径 1.5 ㎞の円の外側をバス利用の対象と考えている。
・坂下中学校区の状況について、令和 14 年度の坂下中学校区全体の児童数は 426 人と推計しており、そのうち、バスの利用者数は 57.5%の 245 人になると見込まれる。その 245 人のうち、北（西尾小学校）方面の児童は 16 人、南（坂下小学校）方面の児童は 229 人である。この場合、北（西尾小学校）方面にはマイクロバス１台、南（坂下小学校）方面には中型バス５台程度の運行が必要になると考えられる。

③　他市事例（資料４～５ページ）
・瀬戸市を始め、資料に記載の７市の中で、瀬戸市以外は専用バスで運用している。対象エリアの基準は、小学生では学校までの距離が２㎞以上としている市が最も多く、専用バスで運用している６市ともに利用者負担はなかった。添乗員については４市が配置していた。
・専用バスを通学時間帯以外にコミュニティバスとして運行している事例はなかった。

Ⅱ　西尾小学校の先行統合について（資料６ページ）
・坂下中学校区の小学校３校を統合した新しい学校の開校時期については、令和 15 年度または 16 年度を想定している。
・８月 24 日開催の第３回学校づくりを考える懇談会の意見交換において、西尾小学校では令和９年度以降、一部の学年で複式学級が編成されると推定していることから、統合までの子どもたちへの対応についても検討する必要があると説明したところ、「西尾小学校と神屋小学校を先行して統合することも検討してほしい」との意見があった。
・９月 25 日に西尾小学校の授業参観にあわせて同校を訪問し、一部の保護者の方から意見を直接聴いた。

その時の意見では、

・西尾小学校の人数から中学校に上がると、環境が大きく変わるため不安であった。そのため先に統合しておくことで子どもたちも慣れると思う。

・学習面が心配。複式学級となり１人の先生が２学年みることで、どうしても授業がスムーズにいかない。

・通学バスを運行するなら賛成。

などの意見の一方で、

・西尾小学校のままで子どもを卒業させたい。仮に統合した場合、運動会などの学校行事の際に見に行くのが大変になると思う。

・西尾小学校なら特別支援学級の子も少人数で静かに学校生活を送れると思う。支援学級の子どものこともしっかり考えて対応してほしい。

などの意見もいただいた。また、通学バスの運用方法について心配する意見も多くいただいた。

・より多くの保護者の皆様の考えを伺うため、西尾小学校に通う児童及び就学予定の子の保護者の方にアンケートを実施する。

・アンケートの対象者は、西尾小学校に通う児童及び就学予定の子の保護者の方とし、学校や保育園などを通じて、アンケートの案内チラシを配付する。

・アンケートはインターネットで実施する。アンケートの実施期間は、令和８年 11 月２日（月）から 11 月 15 日（日）までとし、内容は、坂下中学校区の小学校３校を統合した新しい学校の開校を待たず、先行して西尾小学校と神屋小学校を統合することに対しての意見を聴く。

・西尾小学校の先行統合には、通学バスの運用が必要になると考えている。アンケート結果を踏まえ、バス会社の協力のもとバスを実際に走らせ、運行ルートなどの確認をしていく。

Ⅲ　第３回坂下中学校区の学校づくりを考える懇談会傍聴者意見（資料７～８ページ）

・第３回懇談会の傍聴者からの意見と、それに対する市の考え方を記載している。

・意見は、３人の方から、小中一貫教育についてなど、合計８件の意見をいただいた。意見の詳細については、資料に記載のとおりである。

３　構成員どうしによる意見交換

ＡからＥの５つのグループに分かれ、意見交換を行った。

４　質疑応答

【公立保育園等の代表者】

通学バスについて、配布資料を見ると、ほとんどの市で添乗員を導入していなかった。添乗員を確保することは難しいのか。

また、バスを運行するにあたって道路を整備するのか。危ない道路を横切っていく子どもたちが増えるのではないかと思う。

【事務局】

添乗員について、配布資料から、添乗員を配置している市は４市でした。現在、バス会社と協議を進めていますが、バス会社として添乗員を用意するのは難しいという意見をいただいています。添乗員を配置するということになれば、例えば他市のようにシルバー人材センターに委託することや、地域の見守り隊などの方々に協力をお願いし、バスに同乗してもらうなど様々な方法があると思います。現時点では具体的にお答えすることはできませんが、配布資料１ページの「低学年の児童への配慮」で記載したとおり、子どもたちが安心して乗車できる環境は必要であると考えています。

道路の整備についても、この場で具体的にはお答えできませんが、通学路の安全確保は最優先に考える必要があります。今後、道路部門や建設部門と協議しながら進めていきます。

【就学時保護者】

通学バスについて、専用バスと路線バスのどちらか一方に決めるのではなく、両方の良い点を組み合わせることはできないか。また、他市の事例の良い点を取り入れて、春日井市として理想的な形をつくることが良いと思う。

スクールバスの空き時間を活用しているコミュニティバスについて、配布資料に他市の事例として掲載されていない。全国にコミュニティバスを導入している自治体の例はある。学校づくりは地域づくりであり、地域の年長者を置き去りにすることはいけないと思うので、その点をしっかりと検討してほしい。

また、保護者から子どもが無事にバスに乗車できたどうか見守りをして欲しいなどの意見も当然あると思う。その点についても他市の良い点を取り入れながら検討を進めてほしい。

【事務局】

次回の懇談会では学校統合に向けた計画案を皆様にご説明することを考えており、その中で通学バスについても市の考えをお示しします。

そのため、通学バスの運用についてメリットやデメリットを確認してもらった上で、本日の懇談会では皆様の考えを聞きたいと考えています。ご意見のとおり、専用バスと路線バスを組み合わせて導入している自治体はあります。坂下中学校区においても、県道に路線バスが走っているので、それを可能な限り活用し、路線バスが運行しない地域は専用バスという方法も選択肢の１つとして考えられます。

この後、専用バスと路線バスのどちらが望ましいかなど、各グループで本日の説明に対し、どのような意見が出たかを順番にお聞きしたいと思います。

コミュニティバスについて、資料に掲載した７市の中では通学バスをコミュニティバスとしても運用している市はありませんでしたが、ご意見のとおり全国的に見ればあります。資料の１ページ目に専用バスの運行の場合、地域住民は利用できないと記載しましたが、これはあくまで子どもたちの通学の時間帯に利用できないということで、子どもたちが乗車しない時間帯にコミュニティバスとして運用するかどうかは別問題と思っています。これについては、通学バスの議論とは別で考えていきたいと思っています。

その後、Ａグループから順番に各グループで出た意見について発表した。

【Ａグループ】

統合によって遠くから来る子どもが増えることで、車での送迎が多くなると思う。車の交通量が多くなることで、子どもたちが歩く道が少し危険になるかもしれないという話があった。現在でも坂下中学校の近くの道は交通量が多く、歩道は危ない。小学生が歩いているところを中学生の自転車や車、バスが通ることになると思うので、地域の道路の整備も考えてほしい。

学校内にロータリーの設置を検討するということであったが、現在、雨の日などは学校周辺が渋滞することや、停車する場所などの問題があるようなので、新しい学校をつくる際は、円滑に車の出入りができるよう、一方通行にするなど、車の導線についてもしっかりと考えてもらいたい。

通学バスについて、安全面や費用などを考えると専用バスの方が良いのではないかという意見が出た。ただ専用バスを運行するにあたり、運転手の問題もあると思うので、企業やプロの方にお願いするのが良いという意見も出た。

車での送迎が多いことも予想されるので、早朝の学童の導入なども良いと思う。働いている母親も多いので、朝少しでも早く送っていけるのであれば、少しは渋滞も解消されると思う。

西尾小学校の先行統合について、最終的には西尾小学校に通う子どもと保護者の意見が大切であるということになった。ただ、子どもたちは統合のイメージが湧かないと思うので、子どもたちに意見を聞く前に神屋小学校で体験授業を受けるなどの機会があったほうがイメージしやすいと思う。

【Ｂグループ】

バスについては、一長一短あると思う。今の状態と 10 年先のことを考えたときに、多分状況は違っているので、分けて考えていくべきだろうという声があった。

また、小学校３年生まではバスに乗るけれども４年生以上は歩くというのも、体も大きくなるし、そういった考え方もあるのではないかという意見があった。他に、路線バスの本数は将来的に少なくなるかもしれない。仮に便数を増やしたとしても、普段からそれほど乗る人もいないから、専用バスの方が持続はできるのかということや、現在の路線バスがまっすぐ目的地に行かずに、いろいろな施設をめぐりながら行き、タイムロスも多いので、その辺りの見直しも必要ではないかなと思う。乗降場所については、県道沿いに大きな場所があるとよいという意見があった。

下校について、今の神屋小学校の状況で考えると、１年生が給食を食べて帰る。そのあと２、３年生が５時間目を終えて帰る。４、５、６年生が６時間目終えて帰るという３パターンがある。バスでの下校を考えた場合、例えば放課後なかよし教室のようなところで、低学年が６年生の下校時間を待って、バス下校の子はそこから全員で帰るというような意見もあった。

また、西尾小学校の先行統合について、西尾小学校の方からは、縦のつながりが非常にしっかりしており、特に困っていることがなく現状のままがよいという声と、統合を望む声の両論があるといった意見があった。例えばオンラインで神屋小学校の子と交流をするなど、神屋小学校の子と西尾小学校の子が交流できるようなイベントが増えることはよいと考えている。神屋小学校の側の意見は、西尾小学校の子に来ていただくことはウェルカムで、にぎやかになってよいとの意見があった。

【Ｃグループ】

路線バスか専用バスかは両方のよいところ取りをお願いしたいと思う。

西尾小学校の先行統合については、当事者の意見をしっかり聞き取って進めてほしい。私は神屋小学校区なので、受け入れる方として当然ウェルカムだと考えている。当事者の方々の意見を十分にくみ取り、取り組んでいただきたいと思う。

【Ｄグループ】

専用バスか路線バスかについては、専用バスというのは市のバスであるのか、名鉄バスなどを専用にして運用していくのかということもあるのかなと思った。

やはり地域の活性化のために上手くバスを運用してもらいたいという気持ちが、皆にあるのだろうと感じている。子どもたちの安全が第１ではあるが、人口が減ってしまえば、子どもたちを支える人たちも少なくなるということも考えながら、通学時間帯と下校時間帯は子ども専用にして、時間外は地域の方々が利用できるもの

にするといったことも考えていきたい。現在、バスがない地域の人で使う人は少ないかもしれないが、使いたくないわけではないとは思う。また、その地域に住む高校生たちも外出する際にバスが欲しいと思う。このようなことも考えて、この地域が活性化できるようなバスの形態で、地域の団体や見守り隊などと連携しながら安全に運行できるとよいと考えている。

西尾小の先行統合については、西尾小学校の保護者の意見が最優先だと思う。坂下小学校も忘れずに、少し交流の機会があったらありがたいと思っている。

【Ｅグループ】

通学バスについて、坂下小学校の方面に５台のバスを運行するとした場合、バスが５台連なって走ることが考えられ、坂下小学校の前の道路の交通量が一番不安である。現在の交通量が分かるものがあれば教えてほしいと思う。

また、親としては家から送り出した後、バスに子どもが乗ったのか、乗ってないのかが一番不安だと思う。バスに乗れてなくて立ち往生している子がいた場合、その子が家に帰っても親は仕事に出ているというようなことが怖い。その対応として、システムを導入し運用しているところがあれば、その対応を示してもらえると保護者は安心なのかなと思う。他に、集団登校する場合に、例えば休みの子の連絡がなくて集合場所で待っている間にバスに分団ごと乗り遅れるといったことへの対応として、なにか取組をしているところがあれば教えてほしいと思う。

西尾小学校の先行統合については、他のグループと同じような意見で、事前の準備が何もない状態ではいけないと思う。実際に神屋小学校はどういうところなのかや、行事やイベントがあったりして交流を深めた後だと子どもたちも安心することができ、受け入れの子どもたちも準備しやすいと思う。

【事務局】

子どもがバスに乗ったかどうかを確認することは、他市で乗降管理システムを導入しているところがあります。ＱＲコードを印刷したものを子どもが持っており、乗車したときに運転手がそれを読み込むことで保護者の方に通知が届くものです。本市では、子どもの家に子どもが行っているかを保護者が確認できるようにするため、同様のシステムを運用しています。

保護者の方が不安に思うことを解消していくために、このようなシステムの導入もあわせて検討していきたいと思います。

【地域住民】

今後引っ越してくる人や家族の構成を考えるときに、バス停のそばに家を建てて、学校までバスで行くという考えが出てくる。バス停がどこにあるかを踏まえ、その近くに家を建てるということが、学校の近くに家を建てるということの代わりになる。そうするとバス停の大きさとかバス停の仕組みが重要視されてくる。例えば、バス停に学童が設置されており、そこにある学童に通っていれば、保護者の帰宅が遅くなっても迎えに行きやすい。

現在は県道沿いに家が集まっているし、今後も同様の傾向が続くとすると、例えばバス停の近くに施設を作っていただければ、そこがコミュニティの中心地になる。そうすれば、仮に乗り遅れた子を迎えに行くにしても、その施設に常駐する人が 1 人いれば、柔軟な対応ができると思う。バス停の位置に重きを置き、地域のコミュニティを考えるとすると、バス停の位置も様々な意見が出てくると思った。

また、もっと必要なこととして、道の拡幅や舗装といった道路の改善がある。現在も神屋区内で工事をされているが、どのような工事なのか詳細を知りたい。

【事務局】

バス停については、通学バスの運用方法などの検討が進んでいかないと調整が難しいと思います。路線バスを使うのであればバス会社と調整が必要となりますし、市が専用バスを用意するということであれば、市である程度柔軟にバス停について考えられると思います。

いずれの場合でも、どこにバス停を設置するのか、どこであれば子どもが集まりやすいかなど、子どもたちの安全を第一に考えて、皆様と一緒に検討していくことになるかと思います。

神屋区内の道路工事については、内容を確認します。

【地域住民】

バスの費用を誰が負担するのかということによっては、路線バスを使った方がよいのか、専用バスを使った方がよいのかの話が変わってくると思うので、費用負担をどのように考えているかということを明確にしながら進めてほしいと思う。

資料をみると、路線バスを使っているところだけが費用を徴収している。専用バスの方は費用徴収してないので、多分専用バスの方が安いということではないかと思う。各家庭の費用負担がないほうがよいと思うので、そのことを明確にしながら進めてほしい。

【事務局】

資料の中の他市事例では、瀬戸市のみが路線バスを使っており、利用者負担を月額500円としています。その他の専用バスで運行しているところは利用者負担がないということでした。これは路線バスだからということではなく、各々の市の考え方でこのようになっていると思います。路線バスの活用と専用バスの運行の費用比較をすると、おそらく専用バスの方が総額として高くなります。専用バスでは、運転手の確保から車両の確保なども含めて、市が対応することになります。一方で、路線バスを活用するのであれば、既存の交通の資源を使いつつ利用を拡大する形になります。そのため、総額の費用としては路線バスの方が費用負担は少なくなると思います。本市では利用者負担をどうするかということについて、現時点で明確な答えができないことは申し訳ないですが、この先のいずれかの段階では示していきます。

【公立保育園等の代表者】

他の方の意見にもあったように、バス停に拠点となる施設があれば保護者は安心するだろうし、それに加え、学童もそこに設置するのであれば、早朝の学童もあわせて考えられるのではないかと思う。

また、例えば統合後の西尾小学校の跡地をバス停にすると、学童も分散しやすいと思う。西尾小学校が先行統合するのであれば、跡地利用ということをよい形で考えることもできると思う。少し早いかもしれないが、そういった案も一緒にお示ししていただけるとこちらも安心材料が増えてくるかなと思う。

統合について、おそらくここにいる全員が統合を進めたいというよりは、現状維持のまま、まちが活性化するのが本当は一番よいと思っているのではないかと思う。統合の検討が進んでいく中で、どれだけ妥協ができるか、心配事を減らせるかを考えるグループだと思っているので、今後も一緒に考えてもらえるとありがたいなと思う。

【事務局】

ご意見としてお聞きします。ありがとうございます。

【就学児保護者】

要望ですが、春日井市にはいろいろな課があって、地域づくりの部署は学校づくりの教育委員会と部署が違う。しかし、春日井市のことを思って、しっかり協力して一緒に考えてもらいたい。市として難しい問題などもあるとは思うが、今後の意気込みを聞きたい。地域づくりもしっかりと考えて一緒にやっていくことを教えてもらいたい。

【事務局】

（教育部長の総括の中で回答）

【教育部長総括】

いろいろ貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

今回の通学バスの件は先のことになるので、まだ漠然としています。様々な課題はありますが、現時点でその一つ一つの解決策を見つけていくことは正直難しいと思っています。今後、より具体的な検討が進むにつれて、他にも課題や問題点が出てくると思います。また、道路整備といった要望もありました。できることとできないことはありますが、子どもたちにとって、安全安心といった視点を大事にしながら検討していければよいと思っています。通学バスについては、専用バスにしろ、路線バスにしろ、距離が 1.5 ㎞を超えるというところで利用していただくことになると思っています。

バスは、夏の暑い時期でも空調が効いており快適に学校まで行けるため熱中症対策になるなど、メリットがある一方で、仮に自宅の前にバス停があった場合、バスで学校の敷地内まで行くことで、お子さんがあまり歩かなくなってしまうこともあります。お子さんは毎日歩くことで体力がついて、背も伸びて、たくましい体になっていくという視点も考えながら、多少歩くことも必要だなということも同時に考えていく必要があると考えています。

バスの費用負担という点について、今の時点ではっきりしたことは言えませんが、教育委員会としては、春日井市にいるお子さんが平等に教育を受けられる環境を提供していくことが、責務、役割であると思っていますので、そういった視点を大事にしながら方向性を見つけていきたいと思っています。

また、教育委員会だけでなくまちづくりの視点や地域の活性化の視点ももって、全庁的に取り組んでほしいということですが、本日はまちづくり推進部の職員が同席しています。公共交通を担当している職員ですが、しっかりと皆様の要望も聞いております。今後、全庁的にこの地域がより良い地域になれるように取り組んでいくという意気込みは変わっていませんので、引き続き一緒に考えていければと思っています。

西尾小学校の件ですが、西尾小学校に住んでいる保護者やお子さんの意見を尊重してほしいという意見はごもっともでございますので、アンケートを実施して方向性を見つけていきたいと思っています。また、非常に大事なご意見もいただきました。先行統合も大事ですが、普段から交流をすることによって、子どもたちの心理的なハードルを下げてほしいということはそのとおりです。西尾小学校、神屋小学校、坂下小学校の児童を含めて、この地域の子どもたちが安心して、学校に通える、

そういった環境ができる交流やイベントの機会を増やしていけるのではないかと思いますので、現場の先生と相談しながら考えていきます。今後、統合計画というものを策定しお示ししていくこととなると思いますので、引き続き、皆様から意見をいただきながら、詳細を詰めていければと思いますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

５　その他

【事務局】

・第５回懇談会は、11 月 25 日（水）午後１時 30 分から、ハーモニー春日井で開催する。本市から統合に向けた計画の案を提示し協議いただく。開催案内は、学校のこれから通信に記載しお知らせしている。

・第５回懇談会開催後、統合に向けた計画の案について、坂下中学校区全体を対象とした意見交換会を開催する。開催日時は、12 月６日（日）午前 10 時から坂下公民館で開催する。

６　閉会

午後３時　閉会